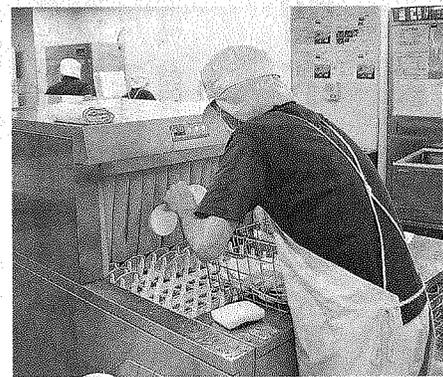


ひきこもりの支援 ①
10月中旬、福岡市内の病院で、10年以上自宅にひきこもっていた経験がある男性が、入院患者の食器を洗っていた。男性は、病院から清掃などを委託されている日本労働者協同組合連合会の組合員として働いている。同連合会博多事業所の梶川竜也所長(43)は「真面目で丁寧な仕事ぶりなのでとても助かっている」と話す。



病院で食器を洗う組合員ら

自治体などが相談窓口

都道府県や政令市は、ひきこもりの当事者や家族の相談にきこもり地域支援センター」を設置している。電話や来所での相談に応じ、自宅訪問を行う場合もある。当事者会、家族会なども実施。窓口は厚生労働省のホームページの「ひきこもり対策推進事業」で確認できる。

厚労省は、若者の就労支援施設「地域若者サポートステーション」(サポステ)を全国に開設し、九州・山口・沖縄に28か所ある。専門家との個別相談、就業体験などを提供。所在地などは専用ホームページ (<https://saposute-net.mhlw.go.jp/>) に掲載されている。

ひきこもりの支援 ②
う。現在は男性4人が食器洗いや清掃に従事。最初はアルバイトとして働き、仕事の様子や本人の意思に応じて正組合員に昇格する。事業所での仕事に自信を得て、別の民間企業に就職した人も3人いるそうだ。

「中には、ストレスをためこみながら周囲に相談できずに悩む人もいた」と梶川さんは振り返る。現在は男性4人が食器洗いや清掃に従事。最初はアルバイトとして働き、仕事の様子や本人の意思に応じて正組合員に昇格する。事業所での仕事に自信を得て、別の民間企業に就職した人も3人いるそうだ。

返る。コミュニケーションが苦手なために仕事を頼まれると断れず、過労になりがちという。梶川さんは、同法人理事長の中光雅紀さん(57)と連絡をとりあい、本人から悩みを聞き出してもらうなどして情報を交換。勤務時間を減らしたり、こまめに声掛けをしたりして対応してきた。

ひきこもりから抜け出して就職できても、期待に応えられないと感じた時などに人一倍落ち込み、再びひきこもってしまうこともあるそうだ。中光さんは「本人を傷つけないという雇用する側の不安を取り除き、本人が安心して長く働き続けるためには、就職後も周囲の支援や見守りが必要。関係機関が連携することが、本当の自立につながる」と話す。

(このシリーズは島田愛美が担当しました)

フオカス

就職後の悩み 情報交換

くらし 家庭



- 麻婆
【材料】
少々、肉 80g、ニンニク、醤油、大さじ2、油、板醤、うゆ、ガラス粉、くり粉、ダ油
【作り方】
①モヤシを火で水気
②フラ
③フラを加
④フラ